

上富下水第 166 号
平成20年10月15日

北海道知事 高橋 はるみ 様

上富良野町長 尾 岸 孝 雄

平成20年度公共事業再評価の審議結果に係る報告について

標記について、平成13年7月6日付け国官総第203号の3及び国官総技第105号の3による国土交通省所管公共事業の再評価実施要領第4の(3)の③に基づき、上富良野町の対応方針及び決定理由を次のとおり報告します。

記

- | | |
|--------------|--|
| 1 地区名 (事業種別) | 上富良野町公共下水道事業 (上富良野処理区) |
| 2 対 応 方 針 | 事業の継続 |
| 3 決 定 理 由 | 事業の有効性・必要性は着手時から変化しておらず、また、事業の実施も計画的・段階的に進んでいるので、今後も事業を推進する。 |

平成20年度国土交通省所管公共事業概要

[上富良野町]

①事業概要

事業名	公共下水道事業	
処理区名	上富良野処理区	
面積	460.0ha	
処理施設の名称	上富良野浄化センター	
処理方法	オキシデーショントイッチ法	
処理能力	6,480m ³ /日	
計画処理人口	10,500人	
事業採択年度	昭和57年度	
事業費	補助対象	8,311百万円
	単独	1,588百万円

事業採択後10年を経た事業に係る評価手法選定表

事業主体	上富良野町	事業種別	公共下水道		処理区	上富良野
事業費 (百万円)	当初全体計画	7,540	当初認可計画	2,570	現行認可計画	8,035
項目		当初全体計画	当初認可計画	現行認可計画	整備状況 (H19年度末)	
計画 の見直し 等の 推移	処理区域面積 (ha)	343.0	49.0	418.0	364.6	
	処理人口 (人)	14,000	2,100	10,280	9,333	
	流入水量 (日最大) (m ³ /日)	8,030	1,104	5,763	2,949	
	管渠延長 (汚水) (m)	71,740	12,475	67,820	54,958	
	ポンプ能力					
	処理場処理能力 (m ³ /日)	8,030	2,000	6,480	4,860	
	汚泥処理能力 (m ³ /hr)	2.0	1.0	7.0	5.0	
評価手法の判定項目						
項目		評価				
関連計画及び関連事業の状況		上富良野町の公共下水道は、上位計画(上富良野町都市計画マスタープラン)と整合を図っている。				
事業の進捗状況		面整備率 87.2% (364.6/418.0ha) 水洗化率 84.2%(7,880/9,364人) 昭和57年度着手、平成3年度供用開始 今後も区域内の管渠整備を行い、流入水量に応じて処理場の増設を行う予定である。				
地元情勢		汚水処理施設の整備により、生活環境の向上と水質環境保全に寄与しており、自然豊かな住みよい町づくりのため、本事業の期待は大きいものである。				
総合評価						
チェックリスト等の評価手法による再評価						

再評価チェックリスト

事業主体	上富良野町	事業種別	公 共 下 水 道		処理区	上富良野
事業費 (百万円)	当初全体計画	7,540	当初認可計画	2,570	現行認可計画	8,035
項 目		当初全体計画	当初認可計画	現行認可計画	整 備 状 況 (H19年度末)	
計 画 見 直 し 等 の 推 移	処理区域面積 (ha)	343.0	49.0	418.0	364.6	
	処理人口 (人)	14,000	2,100	10,280	9,333	
	流入水量 (日最大) (m ³ /日)	8,030	1,104	5,763	2,949	
	管渠延長 (汚水) (m)	71,740	12,475	67,820	54,958	
	ポンプ能力					
	処理場処理能力 (m ³ /日)	8,030	2,000	6,480	4,860	
	汚泥処理能力 (m ³ /hr)	2	1	7	5	
項 目 別 評 価						
項 目		評 価				
事業費の推移		国の予算動向に応じ、適切に事業を実施し、必要な整備水準を達成している。				
処理場用地の取得状況		これまでに事業に必要な用地の確保は、円滑に実施している。				
施設の供用状況		これまで順調に整備が進められ、事業計画の施設能力が確保されている。下水道区域内人口9,873人に対し、処理人口9,364人となっており、今後、さらに水洗化を進め、費用効果の発現を高めていく。				
供用開始区域の接続状況		供用開始より17年経過し、平成19年度末において処理人口9,364人に対し、水洗化人口7,880人となっている。(水洗化率84.2%)				
地元情勢の変化の有無		議会・事業に係わる地権者及び周辺住民から、事業に対する協力が得られている。				
社会経済状況		社会全体の動きに大きな変化はなく、概ね計画と整合がとれている。				
自然環境条件		自然環境条件の大きな変化はなく、放流先河川、周辺の水環境についても悪影響を与えることなく整備が進められている。				
全体計画の変更		変更なし。				
費用効果分析		現在進めている汚水処理整備は、費用効果分析を行った結果、B/C=1.415となっていることから経済的に妥当であると判断される。				
総 合 評 価						
事業を継続する。						

上富良野町 工事費および事業費の推移比較(過去10年間及び全体事業費)

上段:計画値

下段:実績値

(単位:千円)

年次	工事費		維持管理費	計
	管渠	処理場		
①平成9年度まで	3,406,004	1,964,422	884,034	6,254,460
	3,406,004	1,964,422	884,034	6,254,460
平成10年度	222,401	32,000	124,078	378,479
	222,401	32,000	124,078	378,479
平成11年度	233,175	186,000	108,165	527,340
	233,175	186,000	108,165	527,340
平成12年度	287,932	222,300	118,074	628,306
	287,932	222,300	118,074	628,306
平成13年度	292,642	336,143	112,658	741,443
	292,642	336,143	112,658	741,443
平成14年度	210,168	325,900	99,047	635,115
	210,168	325,900	99,047	635,115
平成15年度	216,131	0	102,203	318,334
	216,131	0	102,203	318,334
平成16年度	43,779	0	92,062	135,841
	43,779	0	92,062	135,841
平成17年度	12,852	0	86,220	99,072
	12,952	0	86,220	99,172
平成18年度	2,996	0	96,927	99,923
	2,996	0	96,927	99,923
平成19年度	3,221	0	92,969	96,190
	3,221	0	92,969	96,190
②小計 (10~19年度)	1,525,297	1,102,343	1,032,403	3,660,043
	1,525,397	1,102,343	1,032,403	3,660,143
③平成20年度以降	1,179,000	722,000	1,732,600	3,633,600
	1,179,000	722,000	1,732,600	3,633,600
合 計 (①+②+③)	6,110,301	3,788,765	3,649,037	13,548,103
	6,110,401	3,788,765	3,649,037	13,548,203

諮 問 書

上富下水第 142 号
平成20年 9月 1日

上富良野町公共下水道事業再評価委員会
委員長 奥田哲也 様

上富良野町長 尾岸孝雄

上富良野町公共下水道事業再評価について（諮問）

平成20年度において、再評価対象となる上富良野町公共下水道事業について、下記のとおり上富良野町公共下水道事業再評価委員会に諮問いたします。

記

- 1 上富良野町公共下水道事業に対する、社会経済情勢等の変化に伴う必要性及び投資効果等の再評価について

答 申 書

平成20年 9月 8日

上富良野町長 尾 岸 孝 雄 様

上富良野町公共下水道事業再評価委員会
委員長 奥田 哲也



上富良野町公共下水道事業再評価について（答申）

平成20年9月1日に諮問のあった下記については、9月8日開催の上富良野町公共下水道事業再評価委員会において審議の結果、事案について同意したので答申する。

記

- 1 上富良野町公共下水道事業に対する、社会経済情勢等の変化に伴う必要性及び投資効果等の再評価について

別記

- (1) 件 名 上富良野町公共下水道事業（上富良野処理区）
- (2) 対 応 方 針 事業の継続
- (3) 決 定 理 由 事業の有効性・必要性は着手時から変化しておらず、また、事業の実施も計画的・段階的に進んでいるので、今後も事業を推進する。

上富良野町公共下水道事業再評価委員会名簿

区 分	氏 名	住 所	備 考
受益者代表	奥 田 哲 也		
受益者代表	仙 波 惠 美 子		
学識経験者	松 藤 良 則		
学識経験者	温 泉 敏 一		
公益代表	今 村 辰 義		上富良野町議会推薦
公益代表	村 上 和 子		上富良野町議会推薦

平成20年度 第1回都市計画審議会（公共下水道事業評価委員会）会議録

日時 平成20年9月8日(月)14:00～

場所 役場3階第1会議室

出席委員 奥田哲也、村上和子、今村辰義、仙波恵美子、温泉敏一
欠席委員 松藤良則
出席事務局 建設水道課 北向課長、松本技術審査担当課長、
上下水道班 水島主幹、安川主査、中島主査、岡主任

《会長挨拶》

昨年12月の審議会において、私が会長となりました。不慣れですがよろしくご協力ください。

前回の会議で提起のありました上富良野町公共下水道事業の再評価について、ご審議賜りたいと存じます。

《協議事項》

【事務局】始めに、この委員会の位置付けですが、町都市計画審議会条例第2条4号に「その他町長が都市計画上必要と認める事項に関すること。」第4条第2項に「審議会に専門の事項を調査させるため必要があるときは、専門委員若干名を置くことができる。」とありことから上富良野町公共下水道事業再評価監視委員会設置要綱を決定し、審議会委員がそのまま専門委員となり再評価監視委員を兼ねることと致しました。

【委員長】これより、上富良野町公共下水道事業再評価監視委員会を開催いたします。慣例により私が議長を務めさせていただくことにご異議ございませんか。

〔異議なし〕

それでは、レジメに従い議事を進行いたします。まず、担当委員を決定したいと思います。担当委員の区分について事務局より説明があります。

【事務局】「行政機関が行う政策の評価に関する法律（平成13年法律第86号）」に基づき、学識経験を有する者の知見の活用のため、公益代表・受益者代表・学識経験者に区分し、それぞれの観点から公共下水道事業再評価について審議して頂きたいと思っております。

〔各委員協議し決定する。〕

【委員長】公益代表委員は村上和子氏、今村辰義氏、受益者代表委員は奥田哲也氏、仙波美恵子氏、学識経験者委員は松藤良則氏、温泉敏一氏とします。次に事務局から公共下水道事業の再評価（案）について説明させます。

【事務局】公共下水道事業の再評価（案）により順をおって説明します。

〔再評価の目的、下水道事業概要、評価の方法について、配布資料を基に説明〕

今後の事業として、終末処理場は、平成3年、平成7年、平成13年設置の3基で稼動していますが、耐用年数経過と共に機械類の劣化が著しく、修理をしつつ稼動していますが古い部品の供給が滞る状況にあります。このため、町では改築更新事業を計画しており、財源として補助金を予定しており、そのためにもこの評価は必要となります。

〔資料により全体計画及び残事業の内容を説明。〕

評価の方法のうち、費用効果分析の手法は「現在価値比較法」により、費用及び便益の算定期間は公共下水道事業開始(昭和57年)～全体計画完了(平成32年)した後の50年後とし平成82年までとしています。費用効果分析の結果は、事業全体での実事業費(費用)は約99億円ですが基準による積算上は197億9千万円、便益は280億3百万円で費用便益比1.415となり、残事業では30億5千5百万円の費用に対し、便益38億9千4百万円で効果としては費用便益比1.275でいずれも1.0を上回り妥当になっています。従いまして、対応方針(案)としては「本事業を継続する。」としています。

【委員長】再評価結果及び対応方針(案)についての質疑を行います。

【村上委員】全体計画事業費は99億円とのことであるが費用効果分析値(現在価値)としてはどのようなになるのか。

【事務局】現在の全体計画は平成32年度完了予定としていますので配布資料の費用便益比累計表の整備完了年欄－費用計欄の140億4千9百万円が現在価値化となります。平成20年度現在の80億に対しては評価年欄－費用計欄104億3千2百万円という結果になっています。

【今村委員】公共下水道の受益区域に変遷はあるが、計画区域外の人からの不満はないのか。住民感情はいかがか。また、下水道に接続していないのは、どのような人か。

【事務局】町では、公共下水道全体計画区域外には平成15年から合併処理浄化槽の設置を推進しており、補助金交付要綱に基づき補助しています。

全体計画区域内の未普及区域については、現状において全戸で合併浄化槽処理が行われています。また、アンケートにより意向調査を実施していますが、現在のところ、現計画に対する要望や苦情は聞いておりません。接続が遅れている方は、高齢者のみの世帯あるいは古いアパートなどが多く、改修費用や今後の転出などを考え躊躇していると思われる。

〔現状の受益区域について、当初計画からの変遷経過を説明。〕

【村上委員】近年の普及率・水洗化率はどのような状況か。

【事務局】普及率は平成17年度に汚水管整備を休止しているため、H17以降は伸びておりません。水洗化率は平成18年度83.6%、平成19年度84.2%で微増となっています。なお、伸びている要因は既存家屋の立替が主であ

りますが、家族構成の変更や高齢化に伴う屋内改造なども増えてきています。

【村上委員】 合併処理浄化槽の設置や処理費用も含んでいるのか。主婦の立場から考えるとすると、評価することで料金に影響はないか。

【事務局】 下水道事業計画区域外の合併処理浄化の設置や処理費用は含んでおりません。評価の費用算定は、全国一律の基準で算定しており、この評価の費用効果分析では、収入（経営）等下水道料金が数値として直接関係する部分はありません。

【今村委員】 この（案）によると、費用対効果において1.0以上なので、上手に企画運営されていると考えてよいか。

【事務局】 そのとおりです。

【建設水道課長】 現在、国・道を始め町においても、政策評価により重点的に投資を図るという方針でありますので、この評価結果による対応方針に同意をいただければ補助事業として支援を受け、残事業を進めていけるようになりますのでよろしくお願い申し上げます

【委員長】 議論も尽きたようですので、このへんで取りまとめてよろしいか。

町が実施した再評価結果に関しては、特段の異論が出ませんでしたので「本事業の有効性、必要性は事業着手時から変化しておらず、また、事業の実施も計画的、段階的に進めており、今後も事業を推進していく必要がある。」という理由と「上富良野町公共下水道事業を継続する。」という対応方針を認めることでよろしいか。

【委員全員】 上富良野町公共下水道事業再評価（案）を認めます。

【委員長】 それでは、本委員会として、町の評価結果に同意する旨の答申書を提出することにします。

これで本日の委員会を終了いたします。長時間に渡りみなさまご苦勞様でした。